

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第19回

行方に地底世界への入り口があった？！

行きつけの美容室の二十代後半と思しき美容師さん、彼におススメのテレビドラマやラジオ番組の話を聞くのが楽しみです。最近YouTube内の都市伝説を語るチャンネルを毎日見ているそうで、その中で見た、地底都市の存在がテーマの回をオモシロ例として熱く解説してくれた。

実は私、地底都市や地底人話が大好きなのだ。映画の影響もあってか、三十代くらいまでは、地球人にとって恐怖の存在で警戒しなければならぬ世界としてイメージすることが多かったが、なぜか五十代以降は、地底には平和的な非常に知的な生命体が存在する様子を思い浮かべるようになった。

そしてこのたびイメージしたのは、次のような地底世界への旅だ。

道の駅たまつくり側の霞ヶ浦大橋のたもとアーチ状になった通路そばに、地底世界に通じるエレベーターの入り口がある。そこは、行方の地の奥深くに広がる行方地底に生きる行方地底人のみが目視でき、出入りすることもできるのだ。霞ヶ浦の水面がやけにキラキラと光る午後、さつまいもと鯉の煮付けを買って道の駅たまつくりのデッキに出てきた私は、大橋のたもと付近がもわっと不思議な感じに明るく

のに気づき、吸い込まれるようにそこへ向かう。そこへ到着した途端、小石につまずき転倒すると同時に、買い物したものが四方に転げ、気づけば私は地底行きエレベーターに乗っていた。その地底世界は、水晶でできた太陽を光源とし、地熱エネルギーを利用しながら、漫画『ぼのぼの』(※)のキャラクターそっくりの生命体らが存在していた。私が落とした物を拾って渡してくれたので、その半分のプレゼントすると、彼らは鯉と芋をおいしそうに食べていた。

皆さんは、行方市内のどこが地底世界に通じているのだと思いますか？

※いがらしみきおによる日本の四コマ漫画。『ぼのぼの』というラッコをはじめとして、アライグマくん、シマリスくんなど登場人物はすべて動物で、不条理ギャグと哲学とほのぼのが融合した作品。

小林 光恵さん



「ぼのぼの」の絵の入ったタオルを、もう使えなくなるまで、たぶん15年以上愛用しました。タオルは暮らしの歴史の一部ですね。

行方市出身。つくば市二の宮在住。昨年、市内で開催された「なめがた伝説～浦に潜む巨大生物を退治せよ！」という謎解きアドベンチャーが盛況だったと聞きました。参加した方たちに親近感を覚えます。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。
サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム⑬

令和5年11月に地域おこし協力隊に着任して、残り任期も残すところ1年を切ってしまいました。

年時から、イチゴの研修先の方や農業普及センターの方、市の関係各所と相談を重ね、7月まで一度イチゴの研修を卒業し、8月からはトマトの研修に移らせていただきました。

昨今の物価上昇や夏の異常気象の影響も相まって、農業経営の初期投資額やランニングコストは、年々上昇しているのが現状です。持続可能な農業を实践するために、第三者継承(※)を視野に入れ、就農時のコストを下げていきたいと考えています。イチゴでは、既に新規就農者認定に必要な研修時間を満たしているため、栽培できる品目を増やし、第三者継承の間口を広げていけるよう、トマトの研修も進めていきます。

今回の品目変更に関しては、イチゴの研修先や多品目の研修先の農家の皆さんに相談に乗っていただき、トマトの研修先までつないでいただきました。

行方市に来て2年が経過しましたが、市の皆さんのお気遣いに本当に感謝しありません。残り任期もわずかではありますが、



▲佐藤 晶 隊員

【令和5年11月1日～現職】新規就農を目指し農業に従事するほか、市の農業を盛り上げるためのPR活動等を行う。マルシェ等の企画提案も実施。

地域に何かしら恩返しができるよう頑張っていきます。

※第三者継承：…移譲希望者の農地・施設・機械等の有形資産と技術・ノウハウなどの無形資産を家族以外の継承希望者に、受け渡すことを通して、経営を継承する手法。(次号は、高木桂子が担当します。)



▲育苗後、定植前の苗



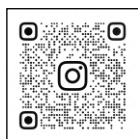
▲接ぎ木した苗



▲なりはじめたトマト



▲背丈が伸びてきている苗



▲活動は、インスタグラムに掲載しています。